

Takahashi Gawa Irigation Works (Continued)

近代的治水工事の整備

高梁川東西用水工事……………(2)

内務技師 植 原 勇

昭和二年の初頭に此の治水工事に因る平和なる山容水態を紹介する事は頗る意義ある事である、前號に續いて高梁川の整備せる工事狀況を示すものである。

山陽線倉敷町に近き本用水工事の中央部に存する柳井原貯水池は前號平面圖に示す如く、地形を最も適當に利用したる、而して本用水工事の最も有用なる役目を果すものであるから前號の地圖と對照せられ度い。(編者)

柳井原貯水池は満水面積百町歩、最大容量二百二十八萬二千立方米を有す。而して本組合の引用必要量は毎秒十二立米なるも、本川流量は毎秒五立方米内外に減少するこゝ稀ならず。蓋し從來渴水時にありては、水源地方

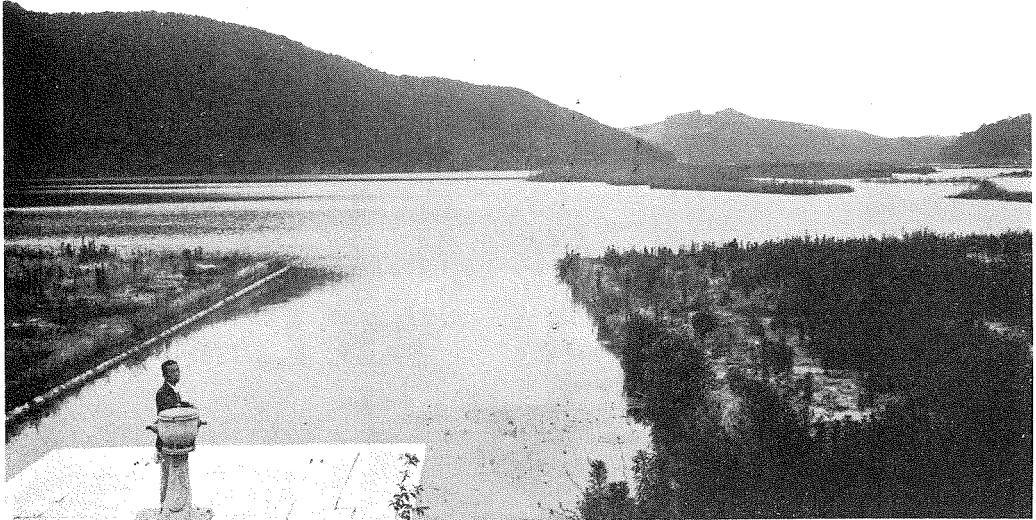
に於ける僅々四五時間の驟雨による増水も蘇生の思ひを以て渴望せられ、灌漑上多大の効果ある狀況なりき。是と同じく旱天時に際し本貯水池より數日間に、一回、毎回、數時間を限り、毎秒十一立方米を放流する時は、約一ヶ月間は水源地方に於ける驟雨と同様の而も定期に必然的效果を得べく、灌漑上利する所多大なるものあるべし。尙右は只一回の貯水に係るものなるも、一部又は全部を放流したる後、本川増水せる場合は更に河水を引入れ貯水し、次に來るべき渴水時に應じ得べく、斯くして河水位の如何により貯水放流作用を繰返し得るを以て、一灌漑期間に於ける有效貯水量は單に二百二十八萬餘立方米のみにあらざるべし。

(6) A 柳井原貯水池 大正十四年七月十四日初めて満水面迄貯水せし時の光景



(6) A. Yanagiibara Reservoir.

## 高梁川東西用水工事



(6) B 柳井原貯水池

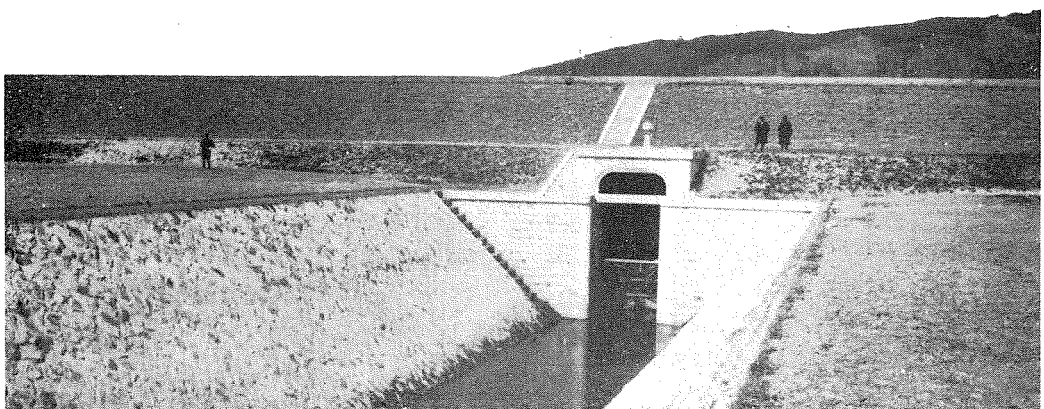
(6) B. The Other View.

貯水池上堤防上より貯水池を望む前方に人の立てるは放水樋管なり。

(7) 貯水池放水樋管の前面

(7) Front View of Drainage.

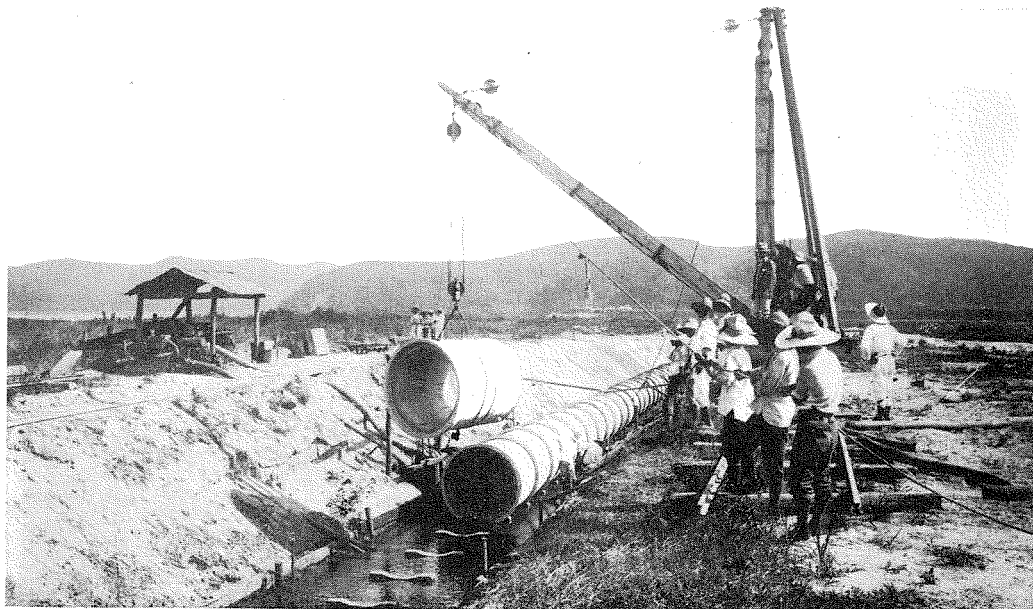
柳井原貯水池を干水して樋管の前面を表はす。満水したる時は護岸張石頂上迄侵水す。



放水樋管は貯水池上、堤防の凡そ中央部にあり、高さ巾共に二米一二長さ三九米五の鐵筋混凝土造り暗渠とし是に扇形鐵扉を附し、貯水池水位の高低

に應じ適當に開扉し、貯水池の項に述べたるが如く夏期渴水期に於て時々毎秒十一立方米を放水し得るものなり。

## 高粱川東西用水工事



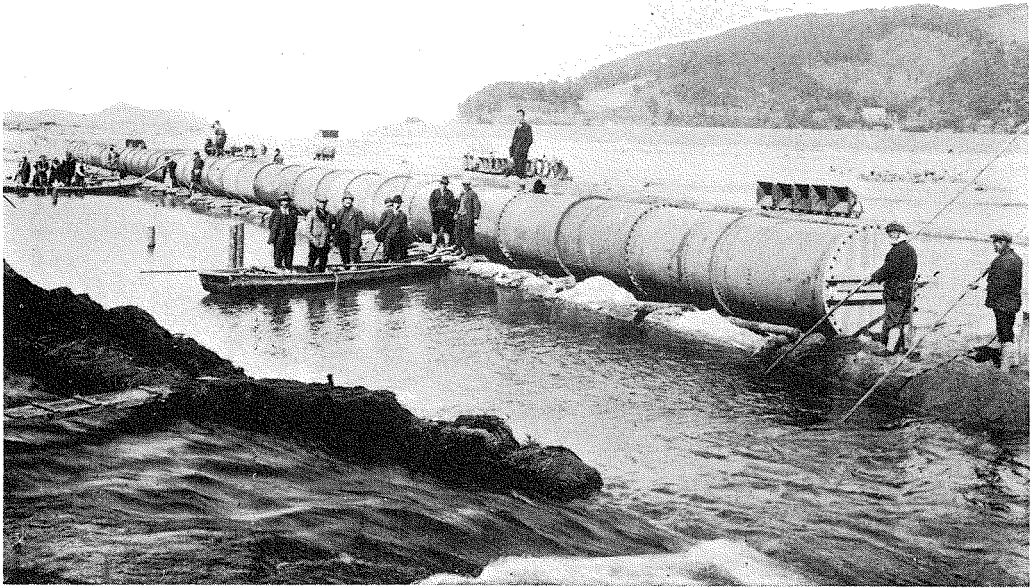
(8) A 貯水池取水管道（工事中の景）  
内徑1米36、長さ1米82の鐵筋混凝土管を布設す。

(8) A. Connecting Supply Pipes.

本川從來の狀況を見るに、秋冬の候灌溉不用時は勿論夏季需用期と雖も出水時に於ては用水所要量の外盡く海に放棄せるを更め、其不用及び過剰水を此管道によりて引用貯水せんとするものなり。即ち貯水池より上流三千六百余米の地點に取入口を設け、内徑一米三六の鐵筋混凝土管を右岸堤外地に伏込み、中間に位する新本川及び小田川には特に同徑の鋼管を用ひて川底を潜流せしめ、取入口には塵除、砂溜の設備をなし、尙取入口より十六米の所に砂溜及び閉閉扉を備へ、取入口より流入する砂礫を除去し、水量の調節に便する

の外、非常時管道閉鎖の用に供せんとす。其以下總て二百七十三米毎に人孔及び掃除口を設け、加ふるに貯水池への入口附近にも扇形鐵扉を附し、貯水の逆流漏出を防ぐこととせり。蓋し斯くする時は夏季用水需用期に於て本川の流量毎秒十二立方米以下に減少する場合の外は、四季を通じて殆んど間斷なく貯水を補給し得るを以て、貯水池に於て蒸發若くは滲透により失わるゝ水量の稍多きに達することあるも、貯水池をして充分其機能を發揮せしめ得べし。

高梁川東西用水工事

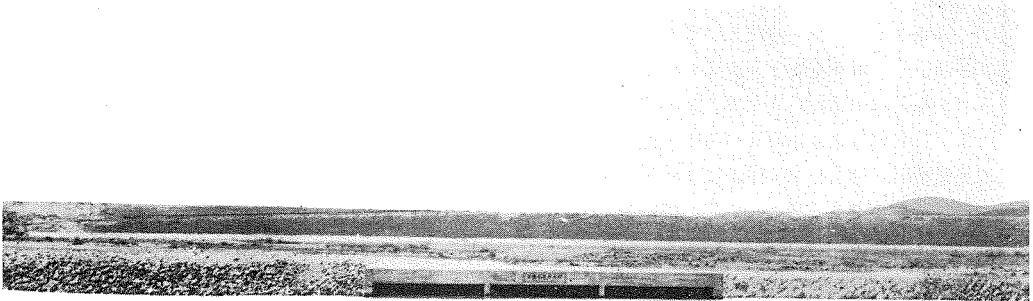


(8) B 貯水池取水管道工事中の景  
内徑1米26、厚6耗の鐵管を支川小田川底に沈埋せんとする處なり。

(8) B. Connecting Supply Pipes.

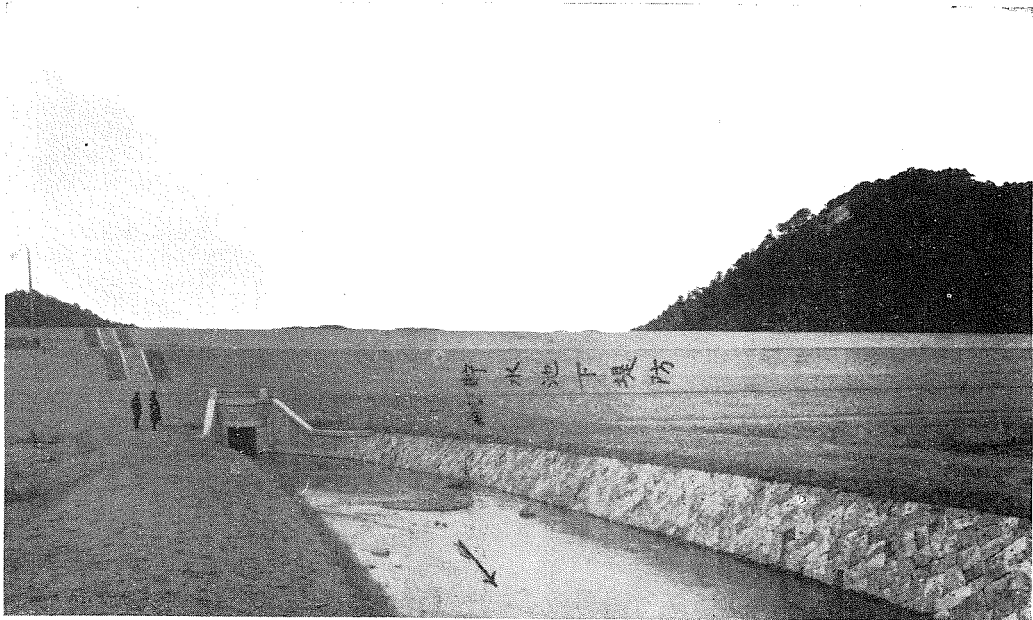
(8) C 貯水池取水管道取入口

(8) C. View of Intake.



高梁川 ←

高粱川東西用水工事



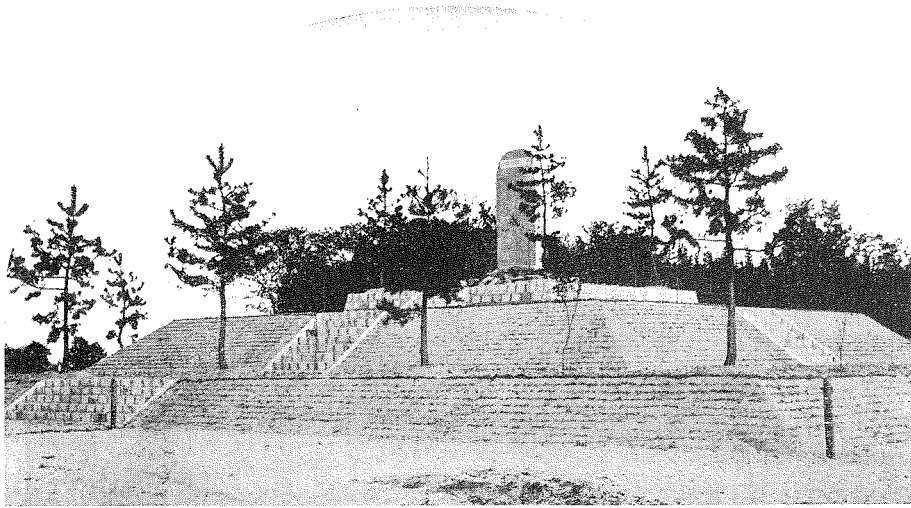
(9) 貯水池排水樋管背面  
貯水池下堤防の向ふ柳井原貯水池なり。

(9) Drainage Canal.

灌漑季節中、旱天打續き貯水の大部分を放流費消し、放水樋管より流出し得ざるに至るも、尙殘存水量は凡そ五十二萬五千余立方米あり。故に貯水池下堤防の西側山麓に本樋管を築造し、樋尻以下は開渠によりて玉島用水路に此殘留水を誘導し、西岸一帯の利用に供

することとし、此期間水江伏樋を遮斷し、本川流量は盡く東岸各用水路のみに給することとす。而して此排水樋管は高さ幅共に一米三六長さ八八米の鐵筋混凝土暗渠とし、是に扇形鐵扉を備へ開閉調節を自由ならしむ。

## 高梁川東西用水工事



(10) 用水工事竣工記念碑 (大正十四年五月建設)

(10) The Monument for Takahashi Gawa Irrigation Works.

### 共存共榮用水の功全く成る

本事業は高梁川改修工事に附帶し完成せられたるものにして、從來古地以下東、西、兩派に沿ひ高梁川を水源とする灌漑反別六千五百餘町歩は舊藩時代より領主を異にし、或は天領と稱する幕府直轄の區域介在する等、各々權勢によりて引水せし習慣は其後も尙遺存せしが、上に郡を異にする多數の町村が、東西、兩派沿岸に於て個々の用水桶管に分屬し引水上關係者双方相對抗し、其所屬桶管を異にするに従ひ、僅か上流に在るも古來の習慣を主張して下流の要請を認めず、餘水を他に逸漏せしめ、或は徒らに海に放流するところも飽まで我田に引水の多からんことを努む

る弊あり。是が爲め下流に於ては多く旱害を生ずるの狀況を呈せり。

然るに本事業の完成は、本川より灌漑必要量を堰堤によりて湛えしめ、盡く同一の配水池を経て、各用水路に公平に經濟的に調節供給し、貯水池に依て其不足を補ひ、將來旱害の憂少かるべく、共存共榮の實を揚ぐるを得て本組合の目的を達し、水利普及上眞に完備せる施設を了したりと云ふべきなり。茲に於て此水利的一大變革を記念せんが爲め、大正十四年五月高梁川改修竣工式に際し、配水池畔に此碑を建て以て後世に傳へらる。(完)